2025 年 4 月 26 日

+Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30. 1994

〒 192-0906
東京都 八王子市北野町 575-22
並木　真　TEL：090-4314-3044
Fax:042-649-5276
E-mail: m.namiki1020heartbeat@gmail.com

2025年4月　The Service Club of The YMCA　第358号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会　長	並木　真
副会長	久保田　貞視
書　記	小口　多津子
会　計	長谷川あや子
直前会長	花輪　宗命
担当主事	菅野　牧夫
ブリテン	山本英次　大久保重子

国際会長 A シャナヴァスカーン（インド）主題「より良い世界のために、共に」
スローガン「立ち上がろう、そして輝こう」
アジア太平洋地域会長　ジョウン・ウォン（台湾）　主題「大きなインパクトを起こそう」
スローガン「大胆に、信念を持って奉仕しよう」
東日本区理事　山田　公平（宇都宮）　主題「ワイズの方向性を見極める」
スローガン「ユースエンパワーメントを YMCA と共に」
あずさ部部長　ピーター・マウントフォード（甲府）　主題「めあて　望み」
八王子クラブ会長　並木　真　主題「協働と共感」

４月第一例会プログラム

（ワイズ強調月間・Week for Waste）

*例会前(3:40 集合)　北野事務所周辺ゴミ拾い運動に参加)
日時:2025 年4月 26 日(土)　18:00～20:00
会場:八王子北野事務所　大会議室(京王線北野駅)
担当:A 班(長谷川、稲葉、小口)
受付:稲葉　　司会:長谷川

・開会点鐘	会長:並木　真
・ワイズソング	一同(伴奏・並木信一)
・ワイズの信条	一同
・ゲスト・ビジターの紹介	会長:並木　真
・聖書朗読・お祈り	小口多津子

・入会式　西嶋健太氏(わくわくヴィレッジ館長・担当主事)
　紹介者　菅野牧夫氏(前わくわくヴィレッジ館長)
　立会人　長谷川あや子さん(あずさ部会員増強主査)

・卓話「アラブ首長国連邦ドバイで開催された IYC に参加」	
中央大学学生 YMCA ひつじぐも4年　岩崎　葵さん	
・東京 YMCA 報告	主事・西嶋健太
・報告と連絡事項	会長:並木　真
・スマイル	小口多津子

・Happy Birthday　(久保田貞視　8 日)

・閉会点鐘	会長:並木　真

巻　頭　言

第 23 回チャリティーコンサート
開会の挨拶　会長　並木　真

東京八王子ワイズメンズクラブの会長を務めております「並木　真」でございます。クラブを代表して一言ご挨拶を申し上げます。

ご来場の皆様、本日はお寒い中、東京八王子ワイズメンズクラブのチャリティーコンサートにお運びいただき　ありがとうございます。チャリティーの支援対象の一つであります、地雷廃絶日本キャンペーンの「清水俊弘(しみず　としひろ)代表理事」にも　お越しいただいています。後程、ご挨拶い

今月の聖句(2025 年４月)
信仰の導き手であり、完成者であるイエスを見つめながら走りましょう。この方は、ご自分の前にある喜びのゆえに、恥をいとわないで、十字架を忍び、神の王座の右にお座りになったのです。あなたがたは、気力を失い、弱り果ててしまわないように、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを、よく考えなさい。
(新約聖書　ヘブライ人への手紙 12:2~3)

ただきますが、あらかじめ、ご紹介申し上げます。

私ども、東京八王子ワイズメンズクラブは、世界最大の国際的な青少年運動であります YMCA を支援することを主な目的とする、国際ワイズメンズクラブ協会に属するボランティアクラブです。八王子クラブはとても小さなグループですが、定期的な例会をもち、お互いの親睦を図りながら、青少年の成長に寄り添い、地域や国際的な、人間に関わる課題に関心を寄せる活動を続けています。昨年 10 月には創立30周年を迎えることが出来ました。このチャリティーコンサートは、回を重ねて 23 回目となります。

今回のコンサートは、地雷廃絶日本キャンペーンの「対人地雷・クラスター爆弾廃絶運動の支援」と「能登半島地震・豪雨被災者の支援」を目的に掲げ、皆様のご協力による益金を全額この両者に寄付をさせて頂きます。非人道的な兵器である対人地雷は、3年を経て、なお出口の見えないロシアによるウクライナ侵攻でも使用されていますし、 パレスチナ、ガザにおける街と人間の破壊など、人間による人間への非人道的な営為は後を絶ちません。また、昨年の元旦に能登半島を襲った大地震と、続く9月に同地域を襲った豪雨は、地域に住む人々の生活を根こそぎ揺るがしました。自然による災害は時と所を選ばないで、私たちの生活を脅かします。いわれなく命を奪われ、傷つき、悲惨な生活を余儀なくされ、支援を必要としている人々がいます。　私たちは、これからも関心を持ち続け、寄り添っていきたいと思います。

さて、本日のコンサートは、「奈良原繭里(ならはら まゆり) ソプラノコンサート ＝弦(げん)の調べ(しらべ)と共に VOLⅡ ＝ 」と銘打ち、ソプラノ歌手の奈良原繭里(ならはら まゆり)さん、 ヴァイオリンの笹川哲史(ささがわ さとし)さん、 ピアノの松井理恵(まつい りえ)さんのご出演、ご協力をいただいて開催いたします。奈良原さん、笹川さんは昨年に続いてのご出演となります。ソプラノ歌手の奈良原さんは、地元、八王子市のご出身でもあり、開催にあたり様々な面でご尽力をいただきました。ご出演の皆様は、私たちの志と、チャリティーの主旨にご賛同頂き、プロフェッショナルで有りながら、ボランティアとしての目線と意識でご出演くださいます。あらためて ご出演の皆様に感謝申し上げます。ご来場の皆様には、美しい歌声、楽器の調べに耳と心を傾け、共に声を合わせて歌いながら、ゆったりと和やかに、心豊かなひと時をお過ごしいただければ幸いです。

終わりに、私どものクラブはいつでも、だれにでも開かれています。ご来場の皆様で 関心をお持ちいただける方がいらっしゃいましたらならば、是非お気軽にお声掛け下さい。心よりお待ち申し上げております。 最後に宣伝も加えさせていただきながら、開会のご挨拶とさせていただきます。

JCBL 代表理事　清水敏弘　様

ご挨拶

私どもの団体は 1997 年。約 27 年前に発足した対人地雷クラスター爆弾などの無差別兵器をこの世から根絶するために活動しようという意志で立ち上がった組織でありますが、このコンサートは実はその翌年、1998 年からずっと続いている非常に息の長いチャリティーコンサートであります。今年 23 回とありますけれど、途中 4 回コロナのことで中断はあったもののこれほど長きにわたって続いているチャリティーコンサートを私たちは他に類を見たことがありません。

この 97 年私たちが発足した年、世界では対人地雷全面禁止条約、いわゆるオタワ条約が成立した年ですが、その条約が発行したのは 1999 年。したがって条約が効果を持つようになってから、現在四半世紀が経ったことになります。この四半世紀の間に世界のこの条約加盟国は 164 カ国。実に世界の 8 割の国が加盟する条約と成長して行き、世界から対人地雷の脅威は着実に

減ってきたわけですが、三年前に起きたロシアによるウクライナ侵攻は軍縮の世界にも暗い影を落としております。最近のニュースではこのロシアのウクライナ侵攻の影響で、ロシアと国境を接するあるいは近い国々が現在、条約加盟国でありながらこれからこの条約から離脱するという議論が国内で巻き起こり始めています。フィンランド、ポーランド、エストニア、リトアニアなどです。

こういった国々が条約から離脱することになりますと、せっかくこれまで築き上げてきた条約の規範力が減少してしまうという、非常に危機感を覚える現状でもあります。

地雷の犠牲者は世界で約6000人。この条約ができた当時は1万人以上いたことを考えると、およそ半分になったということは言えますが、いまだに世界で66,000人近い人たちがこうした兵器の犠牲になっているということ。しかも、その8割以上が民間人市民であるということ。

その民間、その市民のうちのさらに3割は子どもたちであるという現状も深刻に受け止めなければいけない事実だと思っております。私どもも非常に弱小団体として、なんとか言いながらやっておりますけれども、今回皆さんからご参加いただいたことによって生まれてくる資金は、今日お配りさせていただきました資料にありますミャンマーの地雷犠牲者、国内外難民の支援ということに使わせていただく予定です。

皆さん、今現在、世界で一番地雷の犠牲者が多い国と聞かれたらどこを想像しますでしょうか。実はミャンマーなんですね。それまではシリアがずっと多かったんですけれども、一昨年ミャンマーがとうとう世界で一番犠牲者の多い国。一年間で1,000人を超す犠牲者が出ております。この数は今後も増え続けるという可能性がありまして、私たちがいち早くこのミャンマーの成長の安定化を求め、そしてこの犠牲者に寄り添いながら一刻も早くこうした内戦が終わるように引き続き各国政府日本政府も含めて訴えかけながら活動を続けてまいりたいと思います。せっかくのこういった機会でもありますので、音楽を楽しむということがもちろん大事だと思いますが、一方でこうした問題にも合わせて今後関心を持ち続けていただけたらと思います。

チャリティーコンサート成功を支えた応援団各位へ感謝をこめて！

本番前の全員集合

本日の主役・奈良原繭里さん

コンサートマスターのご主人・笹川哲史氏

ピアノ伴奏
松井理恵さん

中大ひつじぐもは頼もしい助っ人です
ひつじぐも3年　小宮 夏光　さん

3月15日に開催されたチャリティーコンサートの、当日の運営のお手伝いのボランティアに参加し、非常に多くの学びを得ることができました。私は、主に受付業務を担当し、来場者へプログラムや筆記用具を渡すとともに、アンケート記入のお願いも行いました。開場直後には多くのお客様が一斉に来場し、受付が一時的に混雑しましたが、プログラムと筆記用具をあらかじめセットにして効率的に渡すこと、またアンケートの趣旨と記入のお願いを受付時にしっかり伝えることを徹底することで、来場者の流れをスムーズにし、混乱を防ぐことができました。

この経験から、一見単純に見える受付業務であっても、イベント全体の印象や満足度に大きな影響を与える重要な役割であることを実感しました。受付がスムーズであれば、お客様はストレスなく入場でき、気持ちよくコンサートを楽しんでいただけます。一方で、対応が遅れたり説明が不足していたりすると、会場全体の雰囲気にも悪影響を及ぼす可能性があります。そのため私は、一つ一つの対応を丁寧に行い、安心して来場いただけるよう心がけました。また、イベント運営においては、細かな気配りや周囲との連携、そしてチームワークが不可欠であることを改めて学びました。どの業務も「ただの作業」ではなく、それぞれがイベントの円滑な進行と成功に直結しているということを再認識しました。

今回のコンサートは、対人地雷・クラスター爆弾の廃絶や、能登半島地震および暴雨被災者支援を目的として開催され、会場では募金活動も行われました。自分がその一員としてこの意義ある活動に関われたこと、そして音楽を通して支援の輪が広がっていく様子を目の当たりにできたことは、社会貢献の意義を深く考えるきっかけとなりました。

今後も、サークルのボランティア活動を通じてイベント運営に関わる機会があると思いますが、今回の経験で得た学びや姿勢を大切にしながら、より良い運営ができるよう努めていきたいと考えています。そして、これからも八王子ワイズの方々と共に、地域や社会のためにできることに前向きに取り組んでいきたいと改めて強く感じました。

並木信一さんとひつじぐもの皆さん　↓

中大ひつじぐもは頼もしい助っ人です
ひつじぐも　　楠田 悠吾　くん

改めましてチャリティーコンサートの運営に参加させていただきありがとうございます。

ひつじぐもと八王子ワイズメンズクラブの皆様とはひつじぐもが始まってからの長いご縁をいただいております。その中でもこのチャリティーコンサートは私達とワイズメンズクラブの皆様とのつながりを象徴するイベントだと感じました。

私自身今回が初めての参加でしたが、充実した一日となりました。朝から運営に参加させていただき、椅子並べや机運びといった力仕事から募金活動や来場者の方のご案内といった細かい仕事まで任せていただいてとても嬉しかったです。

また、仕事をしている最中ワイズメンズクラブの方々が話しかけてくださったり、分からない作業があれば優しく教えてくださったりと初めてで緊張していた自分がリラックスできるような雰囲気に包まれて、安心して場に溶け込めました。

チャリティーコンサートのプログラムも素晴らしかったです。私は裏手の照明室のところで演奏を聴いていたのですが、ソプラノ歌手の奈良原さんの声が分厚い窓ガラスがあったにもかかわらずはっきりと聞こえてきたので、驚きを隠せませんでした。私自身ソプラノ歌手のコンサートに参加するのが初めてだったため、楽しみにしていたのですが歌手の方の声が想像以上のものであったため、呆然としていました。

また、私が唯一耳にしたことがあったショパンの名曲「華麗なる大演舞曲」のピアノソロは昔、小学校や中学校の掃除の時間を思い起こさせるような優雅な演奏でした。この曲が今回のチャリティーコンサートの中で一番記憶に残ったものです。

今回のコンサートは一般的な演奏会とは違い、能登復興支援基金も名目となっているイベントです。私も様々なメディアでいまだに能登半島地震について目にします。仮設住宅に暮らしている方のインタビューを聞くと自分にはできることがないのか、何か小さなことでも力になれることはないのかと思っていました。そのような時に、今回のようなチャリティーイベントが被災地の方々に支援を届けられると同時に自分でもできることがあるんだと気付かされるきっかけとなりました。人々が被災地の方々につなげることができるバトンとなるイベントであったと私は思っています。

改めまして今回のチャリティーイベントに参加させていただきありがとうございます。
今後ともひつじぐもを温かい目で見て頂けると幸いです。

今年の実行委員長:花輪宗命

補助いすを並べるには若い力があればこそ

開演前の綿密な打ち合わせ

ひつじぐも 美しき乙女たち

満員のお客様へ補助いすを設置

受付テーブルの準備

舞台看板を吊り下げます

おばちゃん達も負けられません

お弁当とお茶の買い出し

舞台監督と司会者打ち合わせ

お客様をお迎えする準備完了

照明補佐･望月さんも

重鎮二人が舞台を視察

並木信一さんから訓示を受けるひつじぐも

屋根裏部屋の照明係

入念な照明打ち合わせ

開演前のリハーサル

会長受付を奨励する　為我井さんの姿も

揃ってお食事腹ごしらえ

今年も大入り満員でした

会場入り口でご案内

あずさ部部長 ピーター氏も甲府から

会長の友人前田さんがご家族揃ってお手伝い

ひつじぐも先輩・佐藤絵里子さんを囲んで

コンサートの成功の喜びをみんなでかみ締めました

そして酔いしれました

台湾・高雄ポートクラブ記念例会

特別寄稿文

台湾・高雄ポートクラブ 25 周年記念祝会に参加して

東京多摩スマイルクラブ　　為我井 輝忠

3 月 21 日〈金〉、八王子クラブの 4 人の皆さん(並木 真会長、久保田　貞視さん、小口 多津子さん、稲葉 恵子さん)と共に成田空港第二ターミナルを出発し、高雄国際空港へ向かい、夕刻到着しました。成田でのちょっとしたトラブルにもめげず、南国のねっとりした空気に驚くとともに、これからの4日間に期待を胸に膨らませました。

この日の晩から早速の歓迎夕食会そして翌日の記念晩餐祝会が行われました。

記念晩餐祝会では、先ずは両クラブの林 冠廷会長と並木 真会長の挨拶を頂きました。その後、高雄クラブの役員の方々の心のこもった歓迎のメッセージをうかがいました。特に印象に残っているのは並木会長が挨拶された時、「リーホー」という言葉から始まったことでした。「おや!?」と思いました。この後からも北京語(共通語)ではない台湾語が続き、これには高雄の皆さんはやや驚いたようでした。その後は通訳を交えての日本語の挨拶と変わりましたが、台湾語での挨拶には私自身も想像外でした。さらに、記念品の交換ということで、八王子クラブから大きなダルマを贈呈し、高雄クラブからは我々参加者一同に高雄交通カードを頂きました。翌日早速使うことができたことは言うまでもありません。

その合間を縫って昼間には、2・3日目には新興高級中学での植樹式、高雄高級中学での荘 福泰校長先生と 段 志憲同窓会会長に面談の機会を得、さらに旗津海水浴場、台湾糖業博物館へ案内していただきました。このような盛りたくさんの高雄の皆さんの至れり尽くせりの温かい歓迎ぶりに感動しました。

あっと言う間の 4 日間でしたが、最後の夜にはお世話になった高雄クラブの皆さんに日本の食事を味わっていただきたいと全井亭という日本食レストランにお招きし、会食しました。この店はお刺身を使った丼物が主体でしたが、皆さんに日本食に喜んでいただけたようです。

24 日(月)の早朝、私をのぞいて 4 人の皆さんは高雄空港へ向かい、日本へ帰国されました。

私はもう少し台湾に滞在したいと考え、この後台南と台北を訪問し、4 月 1 日(水)に日本へ戻りました。この間私は各地の教会を見て回りました。カトリック教会から日本時代に創建されたプロテスタントの教会までいくつも見学し、これらはいずれ何らかの機会に紹介できると思います。

台湾・高雄ポートクラブ設立25周年記念例会

久保田 貞視

IBC の高雄ポートクラブの25周年記念例会に並木真会長、小口さん、稲葉さん、久保田に多摩スマイルクラブの為我井さんの5人が参加することになり、3月21日にチャイナエアラインで成田空港を発ちました。

高雄国際空港について空港ロビーに出たところ高雄ポートの主要メンバーが大きな横断幕を持って迎えに来てくれたのに驚き且つ感激しました。小口さんと小生は16 年ぶりの高雄です。

皆で横断幕を掲げて写真を撮り、張弘氏(トムさん)と林さんの車で宿泊先の日光(サン)ホテルに。アンナさんが迎えてくれました。

歓迎会は隣接するカニ料理店でした。そこで倪さんとは10年ぶりで多くは16年ぶりに出会いでした。終了後、並木会長は高雄ポートの林会長と夜の街へ。

22 日は朝8時半にホテルに迎えに来てくれて新興高級中学へ。同校では校庭で、同校の中学部のオーケストラ一団が10年前に八王子に来訪、市内の中学校5校との合同演奏会を東京八王子クラブの招待で実施たことを記したプレートを建ててそこにみんなで植樹。これも感激。

その後、フェリーで旗津区(島)に渡り，寺院に参拝し海鮮街で台湾料理をご馳走になった。

その後ホテルに戻り、トムさんが私たちを出身校の高雄高級中学に連れて行き、同校の荘福泰校長と同窓会会長でトムさんの親友の段志憲氏に会い、同校と八王子東高校の姉妹校としての結びつきを強化するために合同演奏会や短期留学の話などの意見を交換しました。真会長が八王子東高校の卒業生で今後、橋渡しが期待できます。

昼食後はまたフェリーで戻り、宿泊ホテル近くの高級ホテルの麗尊酒店で高雄ポートクラブ25周年記念大会に出席。

高雄ポートクラブ記念例会に参列
東京八王子ワイズメンズクラブ

大会は林冠廷会長の記念の挨拶と八王子クラブ歓迎の言葉があり、来賓として台湾区のマイク・スー理事のご挨拶、引き続いて当クラブの並木真会長が台湾語で挨拶。会場は静かに聞き入っていたので真会長の発音が良く皆に理解できたと思われます。同クラブの日本のIBCはわがクラブより先に締結した2クラブがあるが最近あまり交流がなく参加していない。

記念大会は実質、当クラブの25周年記念と八王子クラブとの懇親の場となりました。会には真会長がだるまを寄贈したのでだるまを真ん中に全員で写真を撮り、大いに盛り上がりました。祝いの贈答品としてのだるまの由来については小生が説明しました。その後はカラオケ大会となりました。

ダルマの目入れ式

23 日、午前は MRT(電車)でかって日本統治時代に建設した台湾製糖工場(今は台湾糖業博物館)に連れて行ってくれました。現在は公園となり市民の憩いの場となっている旧工場跡地を見学。(16年前にIBC締結のために訪れている)そこで元工場長舎宅であったところが5年前から和風レストランになっており、昼食をご馳走になり、庭を観て回りました。小口さんはお父さんが工場長時代に住んでおり、庭にあった防空壕にも入った記憶があるようです。

午後は小生がお願いした高雄最大の人造湖である澄清湖にトムさんと倪さんの車で対応してくれました。この湖は秋田県の田沢湖と姉妹湖となっており、田沢湖の辰子像が湖に入り口にあり、澄清湖が贈った飲水思源像についてはメンバー誰も知らずあちこち聞いて回り、最後には見つけて記念写真を撮りました。ただ、辰子像は綺麗にされていたがこちらは台の上が草茫々で管理事務所で掃除して欲しい状況でした。

澄清湖の辰子像

夕方になり夕食は当方で負担すると言ったら比較的庶民的な海鮮丼の店を予約しており主だったメンバーと会食して別れを告げました。

翌朝は帰国、早朝にも関わらず5時半にトムさんと林さんが車でホテルに迎えに来てくれて空港まで送っていただきました。今回の高雄滞在の間、高雄ポートクラブの方には大変お世話なりました。参加した我がメンバーもそれぞれ楽しみました。IBCのクラブ間の交流も今回のように、ただの交流だけでなく高校の姉妹校や高雄市の団体と何らかのつながりを求めることが必要です。非常に有意義な高雄訪問であり交流だったと思います。

2度目の高雄ポートクラブ訪問

小口 多津子

台湾・高雄はこんなに近かったのかと、改めて思いました。飛行時間の3時間40分だけではなく、IBCを結んで16年は隣のクラブの例会に参加するような、近さを感じました。これまで高雄、八王子、台北、仙台と機会があるごとに皆さんとお会いしてきたからでしょう。

つい先の八王子クラブ30周年にも来て下さった方々との再会は、本当に嬉しかったです。また、今回も張さん、Chuai chen さん、林さん、CP Lin さんには大変お世話になりました。

記念式典参列の八王子メンバーとゲスト
参加の多摩スマイルクラブ為我井さん

今回の高雄・ポートクラブ25周年の記念会お祝いへの八王子クラブからのプレゼントは、並木真会長が懇親の思いで探され、脇にクラブ名とお祝いの文字入りの日本の「だるま」(高さ30㎝)でした。

並木会長は記念会席上での、発音のいい長めの中国語の挨拶(知人から特訓を受けたそうです)には、会

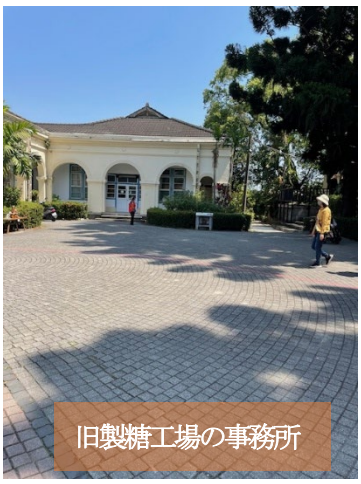
場が静まりかえったほどで、私もびっくり感動しました。さらにだるまの解説は、続けて流暢な久保田さんの英語でした。 高雄・港クラブ、八王子の両会長による目玉入れの儀式は、大騒ぎで大きな拍手で本当に喜ばれました。

翌日の案内下さった観光は頂いた台湾パス(パスモ)を使って、MRTに乗って「橋頭糖廠」という駅で下車しました。駅前にランタンで飾られたお店が並び、日曜日だったので若者の踊りや音楽の行列が通り、賑やかなメインストリートになっていました。そこは私が4才の終戦で日本に引き揚げるまでいたところでしたが、今はもうきれいな台湾糖業博物館のある歴史上の観光地になっていました。 戦前の日本が台湾統治のころから産業として栄えていた精糖業、そこにあった台湾精糖会社に勤務していた父でしたが、その面影は全く探せませんでした。ただ通りの突き当りに鉄錆びた工場がそのまま残っていましたので、皆で工場内部に入り展示物となった機械を見て、見本林のように植えられたサトウキビなど、また工場の内部が見学コースになっていました。 その隣の立派な博物館の中は、明治28年に静岡から渡った鈴木藤三郎氏がこの地でたてたという日本精製糖株式会社の偉業が示されていました。また同じ敷地内に、当時の工場、事務所、お客を接待したというクラブハウスがそのままあり、その隣には父が当時工場長(副か)をしていた時の私の住んでいた社宅などが、大きな樹木の間に点在して残されていました。何度、目を凝らして見ても家の全体は思い出せず、 当時、幼稚園に通っていた私の記憶は、本当にかすかなものでした。

旧製糖工場跡地名の表示

ただ、はっきり思い出せるのは戦争が始まって、サイレンで逃げ込んだ「防空壕」(今回、庭の隅に2個並んでいたのは確かでした)と、近くの神社の狛犬の灯篭、空を覆う樹々などその位でした。

戦後日本に帰ってから、私が中学生の時でした、何かの話のついでにでしたが、父がふと戦時中のその精糖工場で九死に一生を得た話を聞かせてくれたことがありました。


旧製糖工場の事務所

「戦争が始まって、もう砂糖など作っていることが出来なくなって、軍の命令で砂糖の原料サトウキビで軍事用アルコールを作ることを余儀なくされたとのことで、即、アルコール作りに切り替えた。その出来たアルコールをタンクに納め、工場の外に並べておいたとのこと。ある時、家の中にいて戦闘機B29の飛来することが分かったので、父はアルコールタンクのことが頭をよぎり、夢中で工場まで一目散で走り、並んだタンクの栓を1人で全部抜いて地面に流してきたとのこと、その抜いた直後に戦闘機が頭上をかすめてきたので、側にあった貨車の下に潜って、命が助かった」。

私は、昔のこの話を思い出して、今回も古びた工場のそばに、その貨車があるかと探したけど分からなかったです。この度は、高雄の皆さまのお陰で本当に忘れ得ぬ旅の4日間となりました。

居住地のまわり

保存されていた防空

KAOHSIUNG MUNICIPAL HSIN HSING SENIOR HIGH SCHOOL

學中級高雄高立市雄高
時代考慮青年

漢德那斯

「次期会長研修会に参加して」

次期会長　長谷川 あや子

3月8～9日、日本YMCA同盟東山荘で2024-25年度次期会長・部役員研修会が行われ、並木真会長は次期ユース事業主任として、私は次期クラブ会長として出席しました。72名の出席でした。今年の研修会は伝達だけでなくグループディスカッションの時間が多く設けられ、どんな話し合いが出来るか楽しみでした。

8日は朝からどんより曇り空、御殿場駅に着く頃には霙に変わりました。不安でしたが東山荘に着き、並木会長の顔を見てホッといたしました。まずは食堂で腹ごしらえ、美味しいカレーとクリームコロッケ、サラダ、デザート、東山荘定番のランチです。

午後1時からプログラム開始。いつもの本館ではなく1号館の第一会議室でしたが、窓の外は霙が雪となりあっという間に雪景色となりました。

次期理事山下真さん（十勝クラブ）の主題は「ワイズのらしさ再発見」スローガン―Change！―今までは4つの事業委員会でしたが、次期はチームA…榎本書記を中心に会員増強、地域奉仕事業主任がチームに入り事業を推進します。チームB…山田直前理事を中心に国際・交流、ユース事業主任が事業を推進します。次期ユース事業主任の並木真さんは「ユースに関心を持つ、共感することが大事」と話されました。そのことがとワイズがともに関わっていく原動力になるでしょう。

東日本区の会計についても報告がありました。

次期は部事業費が無くなるなど財政が深刻な状況であることを報告されましたが、今までの研修会では扱われなかったことです。組織の簡素化、ファンドレイジングの具体的な施策もありました。

プログラムⅡでは部ごとに分かれグループディスカッションでした。「部としてやりたいことは何？そのためにすべきことは？」あずさ部の仲間が集まって討議しました。あずさ部で2回のディスカッションの時間があり、内容が深まったと思います。夕食懇談会の後、「部長を囲んで」の時間は2号館のロビーで暖炉の火を見ながらいろいろな部の人が自由に話の輪に加わりとても楽しいひとときでした。富士五湖クラブの後藤夫妻は毎年必ず差し入れを持って訪ねて下さいます。

翌朝は青空が広がって富士山もきれいに見えました。研修会終了後、東山荘ランチを食べて帰路に着きました。実り多い研修会でした。

想い出の八王子ワイズ

直前主事・菅野 牧夫

異動によって東京八王子ワイズの担当主事を4月から退くこととなりました。在籍期間中は、八王子ワイズの皆様には親切に対応いただき、ありがとうございました。楽しいワイズ生活を送ることができました。

今回八王子ワイズを離れるにあたり、過去を思い出してみました。たくさんの想い出がありました。

5月の例会で実施したひつじぐもの新入生歓迎BBQ大会＆草取りではたくさんの大学生たちと一緒に汗を流して、ご飯を食べる機会を持ちました。ワイズの皆さんが、若い学生たちと楽しそうに話をしていることは新鮮でした。ひつじぐもの学生と八王子ワイズの出会いも刺激的でしたが、それ以来何年もずっと関係性が続いていることが衝撃です。関係を続けていくには、お互いに相手を思い続けないとできないことだと思います。

八王子ワイズメンズクラブの大きな宝ですね。

3月にはチャリティーコンサートを実施しています。コロナ禍で一度切れてしまいましたが、再開したはじめのコンサートでは司会の大役を仰せつかりました。チャリティーコンサートなんてどうせ3～40人集まればいいだろうなどとたかをくくっていたので、司会も軽くお受けしてしまいました。当日会場で、お客様がどんどん集まってくるのを見て、ビビってしまったことを思い出します。ワイズメンがそれぞれチケットを販売しお客様を集め、当日それぞれの役割を果たし、コンサートを成功に導きました。しかも売り上げはワイズの資金ではなく、チャリティーで使用するという…八王子ワイズメンズクラブのメイン事業の一つですね。

在籍期間中に八王子ワイズメンズクラブ30周年の式典にも参加することができました。100名ほどの方たちが式典に参加してくれました。近隣のワイズ、ひつじぐもの皆さん、YMCAスタッフ、遠くは台湾・高雄からお祝いに駆けつけていただきました。皆さんの普段の誠実さが、たくさんのお客様を呼んだのだと思いました。

東日本区大会に参加したことも大きな想い出になっています。1年目は甲府、2年目は十勝にお邪魔させていただきました。東日本区大会に初めて参加した1年目は人数の多さと儀式的な会に圧倒されました。2年目は余裕も出てきて楽しむことができました。会終了後に八王子ワイズの皆さんと別れた後、並木会長と二人で飲み屋に繰り出していたこともいい想い出です。

皆様本当にありがとうございました。またどこかでお会いしましょう！

「Y's×SDGs Youth Action 2024 オンライン報告会」

書記・小口 多津子

昨年3月に選考されたユースアクションプロジェクトは、全国10グループで5月から活動開始し、今年1月に活動期間が終了となりました。2025年3月16日(日)13:00～ZOOM参加でその1年間の報告会がもたれ、今回も応募した中央大学学生YMCAひつじぐものグループは、「絆を紡ぎ続ける、居場所を目指して」をテーマに、委員長の藤原直輝さん3年生が代表で発表されました。

ひつじぐもは、現在161名ものチームメンバーからなっているので、アイディアも、行動も豊富でした。

実際、部員を企画担当、現場担当、などいくつかの分担で構成されているということも視点が新しいものです。

今回の多文化共生をテーマに、川口市と協働で外国ルーツの子どもたちと楽しむ、知る、学ぶ体験を作り上げて、各国の遊びの体験を通して、「学生から世界を変えていく…」という思いでかかわってきたこと。

会場の川口市イオンモールを使うにあたり、企業のほか、また直接、川口市市役所の職員と八王子クラブ会長も参加して、市との話し合いからスタートさせたこと。

このような取り掛かり方のテーマと準備には、過去にはないアクションへの大きな課題を与えたように思いました。

今月の聖句によせて (2025年4月)

砂漠を歩く一人の旅人がいました。彼は、さっきから残り少なくなった水筒の水を気にかけながら、なんとか早く、オアシスか人の住む村にたどり着きたいと必死に歩いていました。このまま、人に会わず、オアシスも見つからなかったらどうなるだろう、と不安と恐怖に脅えながら歩く彼の前に、ついに一つの足あとを見つけました。

「よかった、この足跡をたどればどうにか人に会うことができる。」と喜びに胸がふるえる思いがしました。足跡をたどり、しばらく歩いていくと、足跡の数はだんだんと増えていきました。こんなに足跡が多くなったのだから、もうすぐ人に出会うことができそうだ。少し元気がでてきて、さらに歩みを進めていきました。

ところが、進むにしたがって足跡は増えてくるのに一向にオアシスも人の住む村も見つからず、人にも出会うことができません。ここで、旅人はあることに気づいて背筋が寒くなりました。足跡はすべて同じで、しかも同じ方向を向いているのです。旅人は気が付きました。彼は長い間、自分の足跡を追って進んでいたのです。

そこで、彼は今度を北極星を仰いで、自分の感覚、自分の足元だけを見つめ歩くのでなくではなく、見上げる星を通して行く先を見定め、あらためて、勇んで歩き始めました。

（　この寓話を通して、私は多くの学びを得ることができました。　）

並木 信一

ひつじぐも便り

中央大学ひつじぐも法学部１年の櫻井 未佳子

こんにちは。中央大学ひつじぐも法学部１年の櫻井未佳子です。桜の花が咲き始め、春の訪れを感じられる頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

ひつじぐもの３月の活動をご報告させていただきます。

まず、１日に八王子駅で能登半島被災者支援のための街頭募金を行いました。歩いている方にも気付いていただけるように、大きな声で呼びかけるなどの工夫をして積極的に取り組むことで、より多くの方から支援していただくことができました。達成感とともに、人の温かさが感じられた活動となりました。募金後の打ち上げで学生同士の交流もすることができました。

次に、15 日の北野市民センターでのチャリティーコンサートについてお話させていただきます。

この活動では会場の準備、受付、片付けのお手伝いをさせていただきました。ワイズの方々も優しく接してくださいました。多くの方々にご来場いただき、素晴らしい１日となりました。私たちも演奏を聴かせていただいたのですが、どの演奏も素敵で、とても貴重な経験となりました。終演後には、能登半島震災と豪雨支援のための募金活動も行い、多くの方から温かいご支援をいただきました。

また、8 日と 26 日には高幡不動の児童館で「リーダーと遊ぼう」という活動をしました。私自身は初めてこの活動に参加したため緊張していたのですが、子どもたちがドッジボールなど沢山の遊びに誘ってくれて楽しく活動をすることができました。春休みの時期に入ったため普段よりも多くの子どもたちと遊ぶことができました。子どもたちの元気な姿から大きな癒しを得られた素敵な活動で、これからも参加していきたいと思いました。

４月からは新歓活動などを通して、多くの新入生にひつじぐもの活動に参加してもらえるように引き続き取り組んでいこうと思います。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。皆様も体調には十分お気を付けて、素敵な春をお過ごしください。

コンサートのお手伝い

東京ＹＭＣＡ 近況報告

担当主事・西嶋 健太

１． ２月 26 日、いじめのない世界をめざす「ＹＭＣＡピンクシャツデー」が全国のＹＭＣＡで実施された。東京ＹＭＣＡでも、各学校、保育園、児童館、学童クラブをはじめ各拠点で、子どもたちや教職員がいじめ反対をアピールするピンクのシャツを着用した他、いじめについて考える様々な取り組みを行い、その様子をＨＰで紹介した。東京ＹＭＣＡの取組に賛同した香港ＹＭＣＡからも、ピンクシャツデーのプログラムに参加する子どもたちの写真とレポートが届いた。

２． 愛恵福祉支援財団との共催で「戦後 80 年になるんだって⁉」をテーマに実施した「第 26 回愛恵エッセイ賞」の表彰式が、３月８日、北とぴあ研修室、及びオンラインで開催された。一般の部、専門職の部、学生の部、外国籍の部の４部門、合わせて 209 人から作品の応募があり、20 人が表彰を受けた。当日は八尾勝審査委員長をはじめ４人の審査委員から作品の講評があり、受賞者から一言ずつ感想が述べられた。また第２部では、ダニー・ネフセタイ氏より「イスラエル軍元兵士が語る非戦論」のテーマで講演があった。

３． 11 月に雨天で延期した国際協力一斉街頭募金を、３月 22 日、新宿駅周辺で実施した。会員、ユースボランティア、学生、メンバー、職員などが街頭に立ち、バングラデシュの子どもたちへの支援を呼びかけ、124,971 円が寄せられた。

４．外国にルーツのある子どもたちを支援する東京ＹＭＣＡの取組が２月 27 日の朝日新聞デジタル版、及び３月 19 日の朝日新聞朝刊紙面で紹介された。なお、外国にルーツのある子どもたちの支援活動（山中湖サマーキャンプ、にほんごサポートプログラム等）のためのクラウドファンディングは、250 万円を目標に４月 18 日まで実施している。

５．今後の主な行事予定

・「第 34 回チャリティーゴルフ大会」４月 10 日　ＰＧＭ総成ゴルフクラ

・「第 22 回会員大会」５月 24 日　山手センター

高尾わくわくビレッジ便り

館長　西嶋 健太

新年度を迎え、わくわくビレッジの敷地内でも桜がほころび始めました。時に冷たい雨に打たれながらも、花びらを落とさずに咲き誇る姿には、春の力強い息吹が感じられます。

わくわくビレッジも新たに3期目へと入るこのタイミングは、新しい事業の準備を本格的に進める大切な一年です。関係各社と手を携え、外部への視察や情報収集を重ねることで、今まで以上に実りあるスタートを切れるよう、スタッフ一同、前向きな気持ちで春休み期間の利用者対応に励んでおります。

わくわくヴィレッジ
広場の太陽登る

季節の変化が訪れると同時に、私たちも進化していかなければなりません。引き続き利用者の皆様により楽しんでいただくための取り組みや、新たな交流プログラムの構想など、多角的なアプローチを模索しているところです。今こそ、多くの人に「わくわく」を届けるために、より一層努力を重ねる所存です。

この4月は、人事面でも大きな変化がありました。まず、前館長の菅野さんが財団法人に帰任され、それまで事務局長を務めていた西嶋が新たに館長職を拝命いたしました。さらに、30代の若手スタッフ2名を管理職として起用し、組織の新陳代謝を図るとともに、財団から出向のスタッフ2名を受け入れ、体制を強化しております。

これまでに培った大切なものはしっかりと継承しつつ、新規事業の推進や利用者の満足度向上に向けて、柔軟かつダイナミックな変革を起こす準備が整ったと言えるでしょう。私たちが掲げる「わくわく」の精神を、より幅広い層の方々に届けられるよう、これからも多彩なアイデアを取り入れながら、笑顔あふれる施設づくりを目指してまいります。

皆様におかれましては、今後のわくわくビレッジの新たな展開にどうぞご期待いただき、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

3月クラブ行事の報告

小口 多津子(書記)

・3月1日(土)能登半島震災&豪雨被災者支援のための街頭募金　pm1:00～3:00まで、
場所、JR八王子駅北口
参加者、クラブ11名、東京Y(中里、熊沢、)ビジター
田中博之(多摩スマイル)、前田 亨(会長友人)
ひつじぐも5名
募金収益・・117,068円を、東京YMCAの能登半島地震被災者支援へ全額寄付。

・3月8, 9日　次期会長、役員研修会(東山荘)
並木真会長、長谷川あや子次期会長出席。

・3月15日(土)第23回チャリティーコンサート(JCBLと能登半島地震・豪雨被災者支援のために)
出演(ソプラノ奈良原繭里、バイオリン笹川哲史、ピアノ松井理恵)
入場者数250名、メンバー16名、ひつじぐも6名、
ビジター為我井さん、田中さん・・計272名
収支差引き　253,862円、内25万円を、JCBLへ150,000円、能登半島支援の東京YMCAへ100,000円を寄付。

・3月16日(日)1時～　Y's×SDGsユースアクション2024オンライン報告会、クラブ6名参加

・3月16日(日)pm8時～　ひつじぐも卒業生を送る会ZOOM参加。

・3月21～24日　IBC高雄・港クラブ、設立25周年記念例会に出席　八王子クラブ、並木真会長、久保田、稲葉、小口、東京多摩スマイルの為我井・・5名
22日(土)午前・高雄港周辺観光、午後・高雄市立新興高校中学校にて、2015年2月の八王子市と高雄市の音楽交流会10年目を記念した植樹に参加。
pm5～高雄港クラブ25周記念会、場所:The LEES HOTEL 台湾区理事 蘇 柏燻出席
23日(日)観光(橋頭糖廠、澄清湖、蓮池湖)
24日朝、帰国。

先月の例会ポイント（3月）

在籍	12名	切手	計 0g
メン	12名	現金	0円
メーキャップ	0名	累計	0円
出席率	100%	スマイル	0円
メネット	3名	累計	89,000円
ゲスト	多数名	オークション	0円
ビジター	多数名	累計	0円

４月誕生されたメンバー

久保田貞視　さん　　４月８日

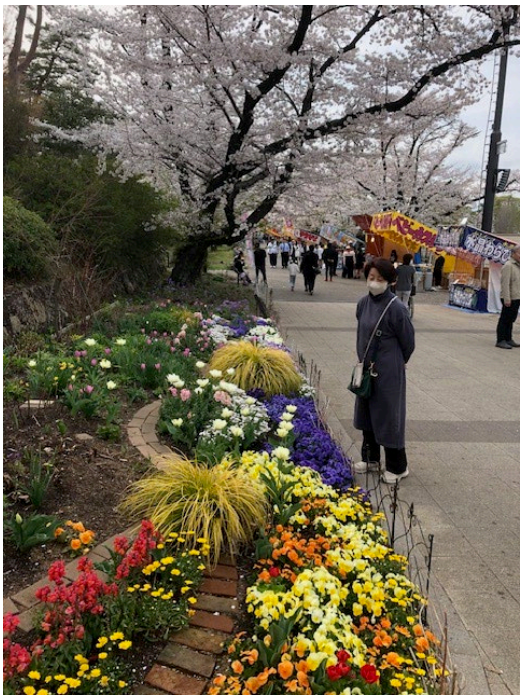
私の町の桜自慢

稲葉恵子さん　町田・芹が谷公園

長谷川あや子さん　高尾山通りすがりの寺

小口多津子さん　町田・　恩田川

久保田貞視さん　高尾山頂



花輪宗命さん　冨士森公園・　豊子桜